

ペダル漕ぎ知床峠上りゆくベルの連打は熊よけのため
 (さいたま市) 大浦 健
 じいちゃんのお米を食べて育った子二歳になりて田植えデビューす
 (前橋市) 都木眞知子
 一緒に住む人がいるんだ 彼女いない歴三十三年じゃなかった息子(小金井市) 武石 文子
 田に非ず帰還困難区域の田十五年経て土にも還れず
 (大船渡市) 桃 心地
 どの畑も防草シート掛け延べて畑仕舞急ぐ限界集落
 (羽咋市) 北野みや子
 我が庭にへびが進入したようだ移住か通過か暫し気になる
 (埼玉県) 永井 久恵
 公園の遊具の馬がすきな児と府中競馬で父の日過す
 (三鷹市) 宮野隆一郎
 そろそろと走る列車と一体になりて渡りゆく余部鉄橋
 (生駒市) 辻岡 瑛雄
 音もなく塀に飛び乗り屋根走り猿やはらかに山へ帰りぬ
 (下関市) 内田 恒生
 二つ目の卵の殻あり嘴でつつきて雉の子抜け出でたるらし
 (山口市) 藤井 盛

【評】第一首、熊よけのベルを連打しながら知床峠を登ってゆくのだという。どんな景色なのだろう。第二首、米農家を継ぐ新世代の誕生である。「田植えデビュー」という語が新鮮。第三首。息子に結婚相手を紹介されたのだろう。

意味もなき合意の陰に意味もなく死にしイラの幾千の民
 (五所川原市) 戸沢大二郎
 地球こそ奇跡の星だ生き物の楽園なのだ地獄にするな
 (横須賀市) 笠原 隆司
 百花みな果てゆくものと落花せり地は豊穡のしとねとなりぬ
 (福島市) 美原 凍子
 80年輝きいや増す憲法を貶めること改憲論議
 (一関市) 奥山与惣美
 物価高で特売・値引きのスーパーによく見る彼は同志のごとし
 (春日部市) 前川 秀樹
 熊の字は能に四つ足昔からクマの賢さ文字に記せり
 (川崎市) 宇藤 順子
 ☆昼休み残り10分の教室にパンの半額セールの放送
 (奈良市) 山添 葵
 肩に手を感じ振り向き人をらず戦死の祖父の倍も生きをり
 (東京都) 椿 泰文
 遠山の金さんも入れていたけれど嫌だサッカ一のタトゥーの選手
 (船橋市) 佐々木美彌子
 四人部屋で消灯の後くつついて恋バナを聞く湖畔学習
 (奈良市) 山添 聡介

【評】1首目と2首目は、ある政治家が世界中の人々を苦しめていることを非難する歌だろう。3首目、どの花も地上に落ちて土壌を豊かにしていることへの賛美。4首目、80年もの間、日本の平和を守った輝かしい憲法を愚弄するな、と。